

引っ越し難民対策のために

この言葉にどれだけ「引っ越し費用」を支払ったか？大学から大学院に住居を引っ越す娘のために、愛知県からお隣の静岡県に単身パック費用を2年前に48万円支払いました。当時は、高いと思いましたが、誰も取り合ってくれず、しぶしぶ支払いました。今回も、新聞紙上では、引っ越し難民カレンダーなるものがあり、又高くなると思い、3月7日に新住所に引っ越ししました。確かに、3月の家賃は二重になりますが、引っ越し費用は6分の1になりました。経済的には、コロナ禍の中、手伝うこともできませんでしたが、24歳の社会人になる娘の静かなる「旅立ち」を見守っている親父です。



石川 秀樹

私のつづやき

今まで、そして、これから

娘が生まれた翌年に㈱ビジネスプランに入社して、早31年目に入ります。コロナ禍の中で1年が経過しましたが、収束の次期はまだ先になる様子です。仕事に関しては、お客様が日々の不安から少しでも脱却していただけるような取り組みを進めています。社内では若い後輩たちができて、われわれ先輩人は、全力で応援していかなくてはならないと思っています。自分自身に関しても、現在のなすべきことを見つけ、新しいことに挑戦しようと決意しています。若い人たちの得意なことは、素直に教えてもらって、年配者は、失敗を含めて積み重ねてきた経験を生かして、聞き取り役になり、励まし役になっていかなければならないと思っています。これから少しでも会社に恩返しができるように、一日を大事に過ごしていきたいと思っています。



横田 憲一

4～6月の税務・お知らせ

- ・申告所得税の口座振替日・・・5/31(月)
- ・消費税の口座振替日・・・5/24(月)

※預貯金残高のご確認を！ 源泉所得税の特例納付、社会保険の算定基礎届のご準備を！

お休みカレンダー

2021年 4月							2021年 5月							2021年 6月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3							1			1	2	3	4	5
4	5	6	7	8	9	10	2	3	4	5	6	7	8	6	7	8	9	10	11	12
11	12	13	14	15	16	17	9	10	11	12	13	14	15	13	14	15	16	17	18	19
18	19	20	21	22	23	24	16	17	18	19	20	21	22	20	21	22	23	24	25	26
25	26	27	28	29	30		23/30	24/31	25	26	27	28	29	27	28	29	30			

わたしたちは、たくさんの“ありがとう”を集め、日本の中小企業を元気にします！

※ 過去のニューズレター「かけはし」は、弊社ホームページからご覧頂けます。

かけはし

Vol. 48

春号

2021年4月

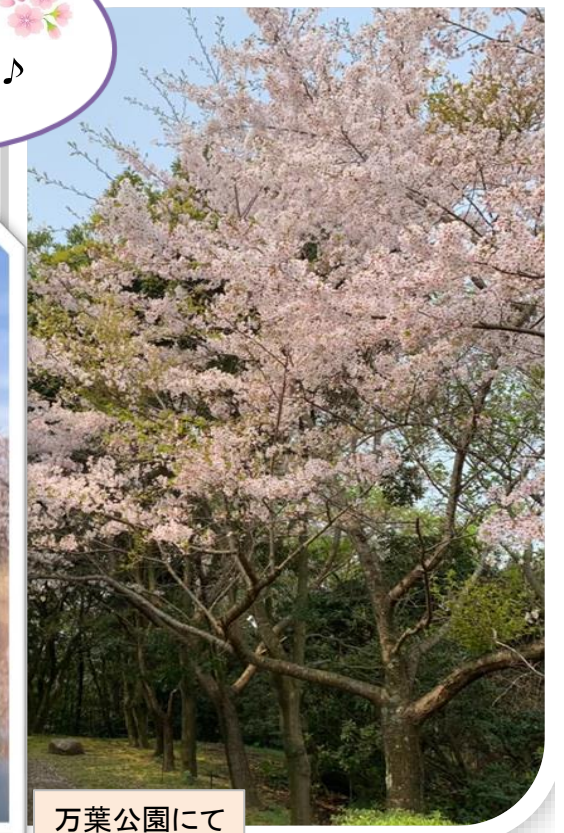


益田市近郊

ようやく暖くなり、春らしくなりましたね♪



幡竜湖にて



万葉公園にて



ビジネスプラン / あんの会計

〒698-0041 島根県益田市高津一丁目1番1号
TEL(0856)23-6116 FAX(0856)23-6674
E-mail bplan@sx.miracle.ne.jp
HP http://annokaikei.com

こんにちは、ビジネスプランの安野広明です。

うららかな春の日差しが心地よい今日この頃、皆様におかれましてはますますご清祥のことと存じます。昨年の今頃は、未知のウイルスの感染拡大に社会が混乱し、職場においても家庭においても、誰もが対応に追われる日々でした。あれから1年が経ち、ようやくワクチンの接種も始まりましたが、いまだに落ち着きを取り戻せていないのはとても残念です。とにかく一日も早い収束を願っております。



代表取締役
安野 広明

さてこの度、弊社がおすすめしている「経営計画書」を少しでも知っていただく目的で「サンプル版」を製作し、同封いたしました。実際に弊社で使っている「経営計画書」は90ページありますが、その中でも肝となる箇所を抜き出し、まとめてあります。

伝説の経営コンサルタントであり、社長の教祖と呼ばれた故・一倉定先生は、「経営計画書も作らずに、よく経営ができるな！」と喝破されました。また私自身、これまでに経営計画書を5年以上使ってきて、「経営において必須のツール」だという確信を得ています。

そこで、ご縁のある皆様にはぜひご活用いただきたいと思います、サンプル版をご送付差し上げた次第です。（現在のお立場上、もしもご不要な場合には、お知り合いの方にお渡しいただけると幸いです）

それでは春号も、どうぞよろしくお願い致します！

人の話を「モスキート音」状態にしないために

「モスキート音」をご存知でしょうか？蚊の羽音のような高周波数の音で、年齢と共に聞こえづらくなるそうです。

したがって、例えば、自宅にある家電がモスキート音を発している場合、子供には聞こえるけど、耳年齢の高い大人には聞こえないなんてことが起こります。ちなみに、先日、家族に聞こえて自分にだけ聞こえない音の存在が判明し、ちょっとショックを受けました・・・

それはさておき、モスキート音は加齢に伴うものなので仕方ないにしても、厄介なのは、人の話が聞こえているのに聞いていない状態です。

中国古典の『大学』にも、「心ここに在らざれば、見えども見えず、聞けども聞こえず、食らえどもその味を知らず。」とありますので、人類は数千年前から、似たような悩みを抱えているのでしょう。もし仮に「聞けども聞こえず」が常態化してしまえば、その人にとっては、価値ある情報もモスキート音状態(!?)になってしまいます。それでは、自ら成長の機会を遮断しているようなものなので、非常にもったいない。

そこで大切だと思うのが、「意識のアンテナ」の感度を高めることです。確かにこれも、加齢と共に錆びつく傾向にはありますが、モスキート音とは異なり、磨くことができます。では、どうやって磨くのか？

それは意図的に、自らの感情を揺さぶるのが効果的ではないでしょうか。感情が凝り固まって動かなくなると、やがて、周囲に対する興味関心は薄れ、頑固化が一気に進行してしまいます。そうやってアンテナが錆びついた人は、自分以外の人の話なんてどうだってよくなるのです。ちなみに、自らの感情を動かすために、個人的には、「本」と「映画」が手っ取り早いと考えています。そういう意味で、このニュースレターの「おすすめコーナー」もぜひ参考にしてみてください。

私自身、モスキート音は諦めましたが、これからも「意識のアンテナ」だけは錆びつかせないよう、心掛けたいと思います。

スマホによる脳のハックを阻止せよ！



何かを調べようと思い、スマホを手取る。メールやMessengerやLINEに通知があることに気付き、反射的にタップする。ついでだからと、Facebookに新しい投稿がないかをチェックし、興味をそえられる投稿に「いいね」を押し始める。そうこうしているうちに、気になるPR広告が出てきて、ついクリックしてしまう。魅力的な新商品に色々と思悩まされるも、今は買わないという選択に至る。サイトを閉じて、ふと我に返った瞬間、「あれ？何を調べようと思ってたんだっけ？」と、そもそもの目的を思い出すのにさらに時間を要し、再び検索し始める・・・こんな経験はないでしょうか？

私たちはこの十数年で、すっかりスマホが手放せなくなっていました。これにはメリット・デメリットがあって、長い目で見ると、個人的にはデメリットの方が大きいのではないかと感じています。なぜなら多くの人が、スマホをツールとして使いこなすというよりは、スマホに使われているからです。上記の一連の行動も、自分の意思ではなく、「次から次へとクリックするよう誘導されている」というのが正しい理解でしょう。

今話題の本、『スマホ脳』の著者であり精神科医のアンデシュ・ハンセン氏は、「私たちの脳もハッキングされる可能性がある」と警鐘を鳴らしています。もちろん、その背景には、広告収入で儲けている巨大企業が存在するのですが・・・

スマホが人間の脳に悪影響を与え、睡眠障害、うつ、記憶力や集中力や学力低下、依存を引き起こすという研究結果もあるようですね。

このことは、iphoneの開発者であるアップルのスティーブ・ジョブズが、自分の子供のそばにiPadを置くことをせず、スクリーンタイムを厳しく制限していたり、マイクロソフトのビル・ゲイツが、子供が14歳になるまでスマホを持たせなかったり、その他にも、IT業界のトップが我が子にデジタルデバイスを与えないといった事実からも明らかでしょう。

スマホを仕掛けた側の人がある依存性の高さや脳への悪影響を懸念し、対策しているにもかかわらず、私を含め、仕掛けられている側である大多数の人は、スマホに脳をハッキングされていく・・・。そんな恐ろしい構造が生まれているのが現状です。

一応、私は、以前にもスマホのリスクについて書かれた本を読んでいたのですが、意識はしていたつもりですが、それでも、昔に比べて、読書の時間が減っているな～と感じており、改めて、気を付けたいと思います。ちなみに同著には、スマホ脳から脱するための具体的なアドバイスも書いてあります。ぜひ、参考にされてみてはいかがでしょうか。

これからますますデジタル社会に向かっていきます。スマホ脳にならぬよう、今のうちに手を打っておきましょう！

本の紹介



「人生を変えるモーニングメソッド」

ハル・エルオッド 著

鹿田昌美 訳

「朝」の時間の使い方を変えることが、自分の成長につながる、ということを筆者の体験談も交えながら教えてくれる本です。具体的なモーニングメソッドも学ぶことができ、できることから実践していけると感じました。大切なのは、ただ早起きすることではなく、早起きして朝の時間を使って何をするのか、目的をはっきりさせることだと教えてくれます。自分の目標を具体的に持つことができれば、併せて読んでみてはいかがでしょうか。



原 光



「毎日、生まれ変わっている」という発想



「ある日、目が覚めると虫になっていた・・・」学生時代に読んだカフカの『変身』という小説では、「人間が虫に変身する」といった設定に、衝撃を受けた記憶があります。他にも、「ある日目が覚めると、王様（お姫様）になっていた」とか「ある日目が覚めると、大富豪になっていた」とか「ある日目が覚めると、女性（男性）になっていた」などといった、「生まれ変わり」や「入れ替わり」をテーマにした小説やアニメや映画がたくさんあるのは、ご承知の通りです。近年では、新海誠監督の大ヒット映画『君の名は。』が代表例ですね。昔から現在まで、作品として残っているということは、それだけ人間には、生まれ変わり願望みたいなものがあるのかもしれませんが。（さすがに、虫にはなりたくありませんが）

しかし現実には、そんなことは起きない訳でして・・・ある日目が覚めたら、そこには、就寝から数時間経った自分がいるだけです。就寝前に抱えていた悩みが一気に解消されていたり、周囲の環境がガラリと改善されているなんてことはあり得ません。まあ、それをネガティブに捉えるかどうかは人それぞれでしょう。

ただ私は、肉体や周囲の状況は変えられないにしても、少なくとも、自分の意識としては「毎日、生まれ変わっている」と解釈した方がよいと考えています。以前、誰かに教わったのですが、「朝」という漢字をバラすと「十月十日」になります。これは人間が生まれるまでにかかる日数（＝妊娠期間）であり、それ故に「人間は毎朝新しい命をもらって生まれている」といった解釈ができるそうです。まさに、その通りだと感じますし、「一日＝一生」で「日々リセットされている」と捉えた方が、過去の自分に引きずられるよりも、よっぽど自分にも周りにも良い影響をもたらすと思うのです。

また、もしも本気でそう信じることができれば、年齢は関係無くなります。つまり、「自分はもういい歳だから・・・」といった世俗的な価値観に流されず、何歳からでも挑戦できるはずで。現に、私が愛読している『月刊致知』には、50歳からでも60歳からでも70歳からでも、中には、80歳でも（！）新たな挑戦を続けていらっしゃる方々が登場されます。そういう方は、決して特別な訳ではなく、おそらく、過去に引きずられることなく、日々、新たな気持ちで自分の人生と向き合っている方々の方ではないでしょうか。まさに、「毎日、生まれ変わっている」のです。

・・・ということで、未熟な私は、まだまだ過去を思い出してはネガティブな想念に囚われたりもしますが、毎朝、「今日も生まれ変わった！」くらいの意識を持ち、日々を過ごしたいと思っています。

経営者が社員をつくり、社員が経営者をつくる



その会社でどんな社員が育つのか？最も影響を与えるのは、経営者の考え方や言動だと思っています。例えば、経営者が社員に幸せになって欲しいと願っているのか、それとも、会社が儲かりさえすれば誰でもよいと考えているのか。これだけでも、社内の雰囲気はもちろんのこと、社員教育にかかる時間や質が大きく違ってくるはずです。仮に同じ人が入社したとしても、どちらの組織に属するかによって、数年後には、人間性や専門性が全く別ものになるでしょう。これはつまり、経営者が社員をつくっているということを意味します。私自身、経営者の立場として、その辺りは強く意識しているつもりです。

ただ、これとは逆の、社員が経営者をつくるといった側面もあります。会社を良くしようと思う経営者にとって、悩みの種となることの多くは、社内の人間関係。見て見ぬふりをするのは簡単ですが、社員も会社も成長させるには、1人1人の課題と向き合わなくてはなりません。そして実は、そうやって社員と向き合い、悩むプロセスそのものが、経営者にとっての鍛錬となり、人間性が磨かれていくとも言えます。もちろん、社員から学ばせてもらえることもたくさんあるでしょう。そのように考えると、そこにどんな社員がいるかによって、経営者の成長も違って来るはずです。

経営者と社員とは、相互に影響し、つくり合う関係にある。そんなふうに解釈し、まずは自らの成長にフォーカスしたいと思った次第です。

自分の回転軸を持ち、禍を福に転じさせる



「災い転じて福となす」の諺の通り、自分の身に降りかかってきた災難や失敗、もしくは立ち上がる壁や試練などは、その時はマイナスに作用するかもしれませんが、将来、どこかのタイミングで、プラス作用に転ずることがあります。

例えば、過去を振り返ると、「当時はただただ苦しかったけど、あの経験があったから今の自分がある」とか「あの失敗で自分の未熟さに気付くことができ、その後、飛躍的に成長できた」なんて経験は、大なり小なり、どなたにでもあるでしょう。あたかも回転扉のように、くると禍が福に転じるのです。

ただし、失敗や試練から目を逸らしたり、逃げたり、取り繕ったり、負のエネルギーで対抗したりしている限り、福に転ずることはありません。回転扉の前で、自動ドアのように横に開くことを期待して突っ立っていたところで、何も起こらない(＝プラスに作用しない)のと同じ。失敗等を正面から受入れ、自ら一步を踏み出すことではじめて、回転扉が動き、禍が福に転じます。

また、回転させるために、もう1つ重要なことがあります。それは、回転軸となる、自分の軸を持つということ。軸が定まっていなければ、回転させようがありませんので。

そして、自分の軸を確立しようと思えば、やはり、他責思考では難しいでしょう。他の人がどうこうではなく、最終的にはすべて自己責任、自身の課題として物事を捉えることができるか？そういった心的態度こそが大切だと考えています。

自分の回転軸を持ち、何が起きても禍を福にくると転じさせられるようになれば、失敗や試練も、むしろ福のきっかけでしかないのだから、これほど素晴らしいことはないと思うのですが・・・いかがでしょうか。

私自身、まだまだその境地には至っていないので、引き続き、自分の回転軸を磨いて参ります。

昨年より、安野広明のメールマガジン「桃栗（ももくり）メルマガ」を始めました。「桃栗経営による永続的な発展と、“人”と“組織”が成長するための視点の提供」を目的とし、毎週月曜日にお届けしています。そちらでは、メルマガ読者限定のセミナーや勉強会の情報も発信していますので、よろしければご登録下さい。登録方法は、お電話にてご連絡いただくか、弊社ホームページより可能です。（インターネットで「あんの会計」と検索 → トップページ「会社概要」をクリックしていただければ、「登録フォーム」がございます）

<安野からのおすすめコーナー>

*このコーナーでは、私が独断と偏見により選んだ、おすすめの本や映画等を紹介いたします。何かのご参考にしていただけると幸いです！

📖 書籍 『1日1話、読めば心が熱くなる365人の仕事の教科書』 (藤尾秀昭 監修)

昨年末に致知出版社から発行され、20万部超のベストセラーとなっている書籍です。私も年初から、1日1ページずつ読み進めています。

ページによっては、キーワードにマーカーを引きまわったり、実践から生み出された言葉に考えさせられたり、登場人物の人生ストーリーに心を奪われたり、胸にグッとくるものがあったり。これほど密度の濃い本は、なかなか出会えない気がします。少しずつ読み進められる点もいいですね。多くの人に読んでいただきたい、おすすめの一冊です。

📖 書籍 『スマホ脳』 (アンデシュ・ハンセン 著)

「スティーブ・ジョブズはわが子になぜiPadに触らせなかったのか？脳科学の最新研究から明らかにする恐るべき真実」という見出しだけでもかなり興味を惹かれますが、中身を読むとさらに驚くはず。スマホのリスクを警鐘するだけではなく、最後には、「デジタル時代のアドバイス」として、具体的な対処方法が列挙されています。著者は、スマホを全否定している訳ではありません。ただし、リスクや問題点を理解した上でスマホと付き合いなければ、自分や家族にまで取り返しのつかない影響を及ぼすことを訴えています。ぜひ一読下さい。